

ニュースレター



NPO法人
あきたパートナーシップ

Vol. 89

発行日 2011. 4. 20

編集 NPO法人

あきたパートナーシップ事務局

連絡先 TEL 080-5566-6238

FAX 018-829-5803

3月11日に、東日本大震災が発生してから、早いもので1ヶ月が過ぎました。しかしまだ、避難所に身を寄せている被災者の方々や、支援を求めている方々がいらっしゃいます。あきたパートナーシップとしては、ボランティアとして現地に赴くと共に、遊学舎内に大震災関連情報コーナーを設けました。一日でも早い復興を望みつつ、少しでも被災者の助けになればと思っています。



研修室6の横の紅梅が花を咲かせました。白梅もそろそろ…。

新年度に向けて

大震災とそれに続く度重なる余震、原発事故に不安な思いの募る中で新年度を迎えました。遊学舎指定管理第二ラウンドの始まりです。5年前の高揚感はありませんが、惰性に陥ることなく緊張感を持って仕事に励みたいものです。

折しも今回の大災害はNPOの役割、あり方にも課題を投げかけています。あきたパートナーシップが責任を持ってミッションを遂行するNPOとして、ワンランク上をめざして皆で活動していきましょう。



理事長 菅原展子

災害支援ボランティアとして参加しました。

4月9、10日に気仙沼へ、NPO法人秋田パドラーズさんと共に、あきたパートナーシップを代表して、副理事長畠山順子、遊学舎職員工藤紘子の二人が災害支援ボランティアとして参加しました。総勢14名で9日午前5時に秋田を出発。途中、道路が寸断され引きかえしたことも2度あり、支援先であるパドラーズさんの知人の武田さん宅に着いたのは昼頃でした。

軽く昼食を取った後、さっそく片付けに入ったものの、どこから手を付けたらよいのかわからず、しばし立ちすくんでしまったことも…。気を取り直してがれきやヘドロの除去をし、その後場所を移動して武田眼科医院のヘドロ除去をしました。女性たちは炊事班として食事やおやつを用意するなど後方支援にあたりました。夜は夕食をとりながら被災者から想像を絶する体験を直接伺い、今後も長期間の支援が必要だと感じました。



活動前のミーティング

次へ続く



2m以上の津波が押し寄せ、広い庭がヘドロとゴミで埋め尽くされました。



武田眼科もどこもかしこもヘドロとゴミだらけ



掻き出しても掻き出しても染み出てくる泥水



こんなにきれいになりました。

未曾有の大災害にも関わらずがれきの中から水仙が花を咲かせていました。

これからも、あきたパートナーシップでは、他のNPOに声をかけながら災害支援ボランティアとして二陣三陣と続いていく予定です。



後ろの建物は、南気仙沼小学校。水仙はこんなイメージで咲いていました。

がんばれ！東北！私たちも応援しています

遊学舎内に、大地震関連情報コーナーを設けました。NPOの支援ボランティアの活動紹介を始め、災害支援助成金などのさまざまな情報を掲示しています。また、県外から避難してきた方々への相談も行っています。これからますます必要となっていくであろう被災者への支援を行っていきます。



大震災関連情報コーナー



七転び八起き
立ち上がれ！東北！

これからの自主事業

内容	日時・場所・その他
市民活動のためのIT相談 「ここが知りたい・解決したい」	4月20日(水)・5月19日(木) 10:00~12:00 場所: 遊学舎 参加費無料
ボランティア・NPO基礎講座 NPO・ボランティアの心構えと基本的なことについて研修します。	5月24日(火) 10:00~12:00 場所: 遊学舎 参加費: 500円 定員: 20名 5月27日(木) 13:00~16:00 場所: 秋田県立秋田きらり支援学校